

2007年6月30日(土)大阪市立大学で開催される日本古生物学会において、丹波産竜脚類化石について、これまでに判明している以下のような内容を発表します。これまで発表していなかった特筆すべき新事実としては、頭骨の一部が発見されたことがあります。

なお、今回発表された頭骨の化石は、7月21日(土)から人と自然の博物館内で展示される予定です

学会発表内容

これまで報道機関を通じて公表したこと

- (1)産地:兵庫県丹波市山南町上滝の篠山川河床
- (2)化石産出層:篠山層群下部層(約1億2千万~1億4千万年前)
- (3)発見者:村上茂・足立洸両氏(丹波市在住)
- (4)発見年月日:2006年8月7日
- (5)発掘:2007年1月~3月
- (6)化石産出層の特徴:氾濫原堆積物(洪水時に平野に堆積した土砂)。
- (7)丹波市で発見された竜脚類はティタノサウルス類と考えられる。含気骨化した椎骨の破片、大小4つの血道弓、尾椎の形態からこうしたことが推定される。
- (8)竜脚類とともに獣脚類(肉食性の恐竜)の脱落した歯が十数本発見された。

新たに公表すること

- (1)鳥脚類の歯の破片2個が発見された。鳥脚類は草食性の恐竜の一種。福井で発見されたフクイサウルスや2004年に淡路島洲本で発見された化石は鳥脚類に分類される。
- (2)尾椎の形態からみて丹波市産の竜脚類はティタノサウルス類でも比較的原始的なものである。
- (3)今回の発掘で得られた丹波市産の竜脚類の化石には頭骨の一部が含まれていることがクリーニング作業により確認された。(学会講演要旨には未記載)
 - (ア)発見された部位:脳函後半部(頭骨のうち脳が入っている部分)。
 - (イ)埋蔵位置の詳細:前位尾椎(尻尾のうち付け根部分)に隣接して発見された。死後に筋肉の収縮により身体が背中側に強く弓形に反り返った結果頭部と尾部が隣接したと考えられる。
 - (ウ)希少性
 - ①国内で恐竜の頭骨の一部が発見されたのは7例目。竜脚類の頭骨としては日本初めて。また恐竜の頭骨の一部が同一個体のまとまった体の骨と一緒に発見されたのも日本では今回が初めて。
 - ②竜脚類(大型で草食性の首の長い恐竜の仲間)の頭骨の発見は世界的にも少なく貴重。これまで竜脚類は120種あまり知られているが、そのうち頭骨が一部分でも知られているものは40種あまり。比較的保存の良い頭骨を持っているものはさらに少なく20種程度。丹波の恐竜が属すると思われるティタノサウルス類(竜脚類の一種)では11種あまりで頭骨の一部が知られているが、比較的保存の良い頭骨の知られているものは4種に過ぎない。
 - ③今回尾部に加え頭部が見つかったことにより、その間に位置する胴体、四肢、頸部が埋蔵されている可能性がさらに高まった。これら残りの部分が発掘されれば東アジアを代表する白亜紀前期の竜脚類となるだろう。

これまで国内で発見された恐竜の頭骨の一部分

フクイラプトル:福井県勝山市北谷産。前期白亜紀。上顎骨、歯骨破片。獣脚類。

フクイサウルス: 福井県勝山市北谷産。前期白亜紀。鳥脚類。頭骨下半分。
ヒプシロホドン類: 石川県白山市桑島産。前期白亜紀。鳥脚類。頭骨。
ノドサウルス類: 北海道夕張市産。後期白亜紀。曲竜類。頭骨左後半部。
テリジノサウルス類: 熊本県御船町産。前期白亜紀。脳函。獣脚類。
ハドロサウルス類: 兵庫県洲本市。後期白亜紀。歯骨。鳥脚類。